

を語り、地震原因論説をのべて岩漿内壓力によつて、地震が起るといふことを力説し、斷層は地震の原因ではない、岩漿の垂直運動又は水平運動による變化が、或は土地の凹凸となり、斷層の出現となるといふ、所信をのべられたものであつて、我等は今地震そのものを明に理解すべき道程に立つてゐることを教へられてゐる、まだ、地震の豫報といふことは出来ない、もう少し靜かに事實を靜視すべきことを教へられてゐるのである。(藤田)

紀州 鐵道省發行

紀勢西線が白濱口からさき紀伊富田驛まで開通し、紀勢東線が相賀から尾鷲まで開通した機會に於て鐵道省は紀伊の國の風光を紹介せんとて、この四六版百八十頁の美はしい小冊子を二月十日といふのに公刊した、秦の徐福がきたといはるゝ熊野、奈良朝からこなた歴代の御幸を仰いだ牟婁御幸道や熊野街道は所謂名勝古蹟の群落といつても差支へない、南は大海の黒潮に洗はれるリヤス式海岸にこんもりと儔着たる馬目の木や黒松の森、大邊路中邊路とりどりに美はしい自然と懐古の思ひ出はふかい。本書和歌山線、紀勢西線、紀勢中線、紀勢東線の各線各驛について巡覽の乘ともいふべき解説がある、地理歴史各項にわたつて細大洩らさず、最後にハイキングコースとしての日程案が加へられ、温泉めぐりや熊野めぐりと相俟つて清新の氣卷中にあふるゝを喜ぶ。(藤田)

朝鮮の松茸

平安南道に於ける松茸は有望で昨年は夏の長雨で幸に一般に生長がよく總生産額一千六百七十四貫で前年よりも三百八十六貫増産價格も一萬三千圓に達し、林業副産として斷然光つてゐる、平南の中で陽徳郡が第一で千三百貫を産し七割七分をしめた、平坦部で大同、中和、平原、安州、順川、山間部では成川、寧遠、价川など九郡に跨つて三十一ヶ面、百〇四ヶ里にわたる、平安南道全體にこの松茸山が出来の見込になつた、七月中旬から十月の上旬までに收穫され、平壤の仲買人が買集め、地方農民は利益が渺いので、今般生産組合を組織した。

攝氏十三度から十七度までの氣温かつゞき、花崗岩を母岩とする土壌が最適し松茸の菌糸は赤松の地表近くの鬚根に寄生する關係上、幼齡木には出ず二三十年頃の木から發生し四五十年の木が最もよいが、稀には百年前後の樹齡のものにも出るといふことがわかつた。

臺南第一中學校の氣象觀測

本年一月一日から生徒に氣象を觀測させる事になつた其要項左の如し。

○設備

一、露場 本校南庭芝生内に選定し、規定の百葉箱を建設、中に左の機械を置いた。

乾濕寒暖計

最高寒暖計

最低寒暖計

自記寒暖計(七日卷)

又露場内に左の機械を設けた。

地中寒暖計

一〇糎

二〇糎 曲管

三〇糎

五〇糎(鐵管)

一米(鐵管)

二米(鐵管)

雨量計

蒸發計

二、屋上設備

ロビンソン風力計 二階建陸屋根上二、四米の鐵骨を建て、

此の上に置く。又電氣盤は地歴標本室に置いた。

風信器、風力計に並んで建設、方向板は廊下天井に取付。

三、水銀晴雨計地歴標本室に取付、(海拔二〇米七六糎)

自記晴雨計 右と並んで置いた。七日卷

以上の器械は水銀晴雨計が島津製作所製である。外の全部は東京中村淺吉商店から購入した。

尙運送途中の故障を慮り、着荷後全部一應當市測候所に再檢

査を依頼、器差の正否を檢した。

○觀測の方法

觀測者は自發的に觀測希望を申出た生徒を主體とし、地理擔任教師が之の指導の任に當つた。觀測時間は學校の授業終始の關係上、放課後十分の午後二時五十分から開始する事とし便宜上風力は十分間觀測と云ふ事とした。又一日六回觀測の價値をあげる爲、午後三時に水銀並に自記の寒暖計、晴雨計の示度をよみ、之によつて生じた器差を自記紙の午前午後の二、六、十時に配分して平均氣溫氣壓を求めた。

尙最高寒暖計も此の時に復度する爲、三時が最高温に當る時は同一氣温が前後兩日に記入される缺點がある。

臺南一月平均氣壓七六二、九糎、最高氣温二二度七、最低一

三度一、平均一六度四其他略。(内田勲氏報告)

○セイロン島の自動車

近來セイロンの道路急激な發達に伴ひ、交通並運輸機關として自動車利用は著しく増加し

た、其最初の自動車は一九〇四年であつたが今は一般に普及

し乗合自動車の如き、古倫母を中心に接續都市の間を走り、

爲に國有鐵道は其近距離の收入に大影響をうけたる現況で、

今後十年にして目覺しき利用が増へるであらう、但しこの國

へ輸入される自動車の輸入率は從來の從價五〇%を六

五%に高めたために自動車の利用を妨げるから目下輸入税引

下げの聲が高い。

かくて一九三四年十月末自動車は二四、六一四臺で、前年

の二三、三〇一臺よりも一、三一三臺の増加で本島人口五百五十萬として毎二二五人に一臺である、其製品は英國製オースチン断然頭角をぬき、米國製シボレー、英國モリスの勢相伯仲し英國製スタンダード、米國オパールランド、ビュイツクは遙に下りモリスにつぐ、乗合自動車はシボレーでありオートバイは英國品である。所が最近に日本人の手で自動車ニューダツツンが一臺セイロン島に送られた、これは右の品よりもやゝ安いので、猶數臺日本製が輸入され引つゞいて注文がでるといふことである。

○白領コンゴへの邦品

白領コンゴ首府レオポルドヴィルの市況報告によるに、同國への本邦品は昨今綿製品護謨底カンヴァス靴殺到し就中折襟付襯衣は土人の好む所となり他國製シャツを壓倒し廉價堅牢なるカンヴァス靴は革靴及靴下の需要を激減せしめたといふ、従來本邦品は主として阿弗利加東岸より鐵道によつて東部へ輸入されたが近頃は遠く西部方面へ進出したのみでなく、西岸マタデ港へ行くために、アフリカ東部海港で自國船に積かへてはこぶものゝ外に本邦から獨逸船で積込直接マタデにゆくものが出来た。

目下捺染、絲染ものは英國品の需用多く和蘭品と本邦品之につぐ、本邦品は主として綿布生地で勝る、綿布色合は一般に濃厚を好みエクトル地方は白地に褐色及赤色を配したものの、バス・コンゴ地方は緑、青、黄、橙等を配合したものの、カサイ地方は青地に薄空色を配したものがられる、土人用頭

巾地は本綿物は英國品、絹物は英・佛及本邦品である、敷布卓子掛で土人向の鼠色、赤色、褐色地に赤黄の筋入もの八百瓦乃至五百瓦の和蘭品がよくられる、最近本邦のシャツと猿股がよくうれ、和蘭品を驅逐し、ドイツ製のサルマタも打撃をうけた、靴は土人は殆ど本邦製ゴム底カンヴァスであつて革靴は白人間に用ひらるゝに過ぎない。

猶又阿弗利加エチオピアへの本邦品は主としてデブチ港に陸上げせられ、綿布は一九三四年上半期に於て三百八十八萬法に達し絹織物人絹物、これにつき麻袋や燻すも需用が多い。

○ヤクート共和國

一九二二年四月全露中央執行委員會幹部會で、ヤクート自治社會主義共和國の建設が決定されたが、其以前白系ロシア人の居住があつて何回となく征伐された結果であつた、何といつてもシベリヤ東部の森林地帯であるから土地は廣いが人民は僅に三十二萬人密度は一平方籽に〇・一人といふ稀薄である、一九三〇年に行政区を十八にしてツングースの居住に割當てた、一九二九年に羅化されたチュルク文字を造くつて民族語の出版物を出しはじめたがこの刊行物はあまり進んでゐない、産業といつても最初見るべきものはなかつたが第一次五ヶ年計畫の進行につれて農工業の形が出来た、漁業(レナ川)や製鹽業やアルダンの産金業も企てられたが、まだ鑛産物などは未探検である、森林は全共和國領土の七二%でロシア聯邦中第一位である、石炭の埋藏は多い、ボトム鐵鑛は二二〇平方籽に達しヴェルホヤンスクの東

西、二三、〇〇〇平方料に亘つて重要礦物の埋藏が多く、ウィルユイの燐灰土、レノウイリユイの岩鹽は注目すべくアルダンの金は年々産額を増加してゐる、この金は一九二三年の發見で一九二三年度に全聯邦産額の二〇・四%にも達した、一九三〇年度では成績不良であつた。

何れにしても人口が稀薄な寒帯だから産業の進歩は不振で

目下活動中のものはサンガル石炭坑、カンガラヌスキー岩坑、ケンペンデヤイ岩鹽、ヤクト製材工場、オレミンスク、ニユイスク、ムツイスク、ウイツムスタ、ネザメトニンスク、各地の製材所、ヤクトック皮革工場位であつて、設立準備中のものは器械鑄造工場、化學工場、ヤクトック發電所等である、しかしかうした文化的施設がツングースの民度に適するや否やは勿論不明であつて、投資しただけの利益はまだ上つてゐない、そこで各産業部門に學校や講座をつくつてみたところ其生徒三四八名のうちヤクト一人一八二名といふ程度に止まる、ソヴイエトの理論による計畫は中々立派であるが生産労働者中に於ける文化事業の缺乏又は不足の甚しきことは其報告にも記してゐる通である、たゞしソヴイエトの農業經營法によつてこの國の播種面積は増大しその農業方法が機械化したことは非常な進歩だとみられる、即ちトラクターは一九三一年に百二十一臺を有したのが一九三二年は二百六十一臺になつた、即ち國營農場が四八四ヘクタールから四、四九〇ヘクタールになつたことをみてもその結果は明であり、一方コルホ

ーズ運動も進行した。

目下この國では交通の改善をはかり、鐵道はないから主としてレナ川の冬期の水上交通に依存してゐるけれども、各地に車馬道の建設をはかつてゐる外、一九二八年以後ヤクトック、イルクーツク間の航空路をたて、主としてレナ川に沿ふて飛行し夏期二、三日、冬期五、六日に到達する、機はユンカリス水上機三臺に達してゐるといふことで、一九三一年中に旅客二六一名を送つた。

○獨逸の對外貿易 一九三三年獨逸の對外貿易は商品輸出入合計九十億馬克餘で、最近十数年の最低レコードを示した、輸出は約四十九億で一六%減、輸入は四十二億馬克で一〇%減退である、従つて輸出超過額も前年よりは減退したが、

其減少の原因は勿論輸出不振であるが同時に輸出入價格の變動も影響してゐて、輸出品の價格が一〇%内外下落したことも擧げ力がある。

そこでこの輸出超過で外國爲替を獲得せんとする經濟的必要には不足するに至つた、事實一九三三年の獨逸の對外債務百二十八億馬克に對して利拂のために約七億マルクの外貨のトランスファーが必要であるから貿易外收入等を考慮に入れて月々六千萬馬克に相當する、外國爲替餘を生ぜしめなくてはならぬ、こゝに獨逸對外經濟の困難の最大原因がある。

獨逸の輸入は、平均五四%が原料、二九%が食料及飲料で輸出の大部分七七%が精製品となつてゐる、従つて獨逸の貿

易バランスは輸入では原料と食料、輸出は精製品であるが、輸入原料の内六六％は棉花と羊毛で二〇％は礫石であるから、之を少くするために獨逸國內の農産や礦産がどれ程必需品を防禦しうるかを考へねばならない。同時に獨逸品を世界に盛んに賣らねばならぬが一九三一年に世界貿易の一〇％をしめた獨逸の對外貿易は、一九三三年に九％をしめることが出来なくなつた。さうしてこの間に世界の他の主要貿易國は何れも獨逸よりも好轉してゐる、今之を表示すれば

	輸入	輸出
英國	四％減	増減ナシ
米國	六％増	一％増
獨逸	一〇％減	一五％減
佛國	二％減	六％減
日本	三八％増	三九％増
和蘭	七％減	一四％減
ベルギー	七％減	五％減
カナダ	一四％減	六％増

で貿易の増加したのは日本を例外にして米國とカナダが目立つ、減退の側では獨逸が最も不利である。この原因は一は歐洲外諸國の貿易の相對的擴張で(日本及米國の伸張による)そのため獨逸は壓迫された、第二に歐洲では多くの國が自給自足經濟國家主義の傾向を取るに至つたことである、この傾向は獨逸の貿易を少くするのみでなく、歐洲一般の貿易

にも影響し極端に行くとな左の三様式以内に貿易は限られる恐が生じてゐる。

- 一、歐洲諸國の特種精製品を熱帶亞熱帶地域に賣り、其支拂として當該地方の特産品たる食料及嗜好品を買入れる事。
- 二、歐洲工業諸國の必要とする原料及半製品で歐洲では大量に取れない品物とか、近き將來に代用品の得られない品物は是非買はねばならぬこと。
- 三、歐洲各國の特質工業製品の相互の取引。

右の三つしか商賣がなくなる。さうして取引上のこの三つの型式は現に獨逸のみでなく歐洲一般の世界經濟的諸關係の核心を形成せんとするやうになつてきた。

故に獨逸でも輸入減は自國內農産物の増加で食料や飲料に著しく現はれ、原料及半製品の輸入は却つて増加してゐる、詳言すれば穀物(五七・四％減退)卵類(三八・四％減)油脂及バター(三四・二％減)魚類(二六％減)野菜類(二一・四％減)といふ風である、其原因は國內品の生産増加と、肉類、牛乳、鶏卵等が不景氣のために消費が減じたことによるが、これは獨逸政府の農業政策の遂行にまつところであつた、同様な政策で輸出の奨励をはかつたけれども、他國の不景氣は獨逸の機關車や給水車、鐵道材料の輸出を八〇％減退せしめ、自動車はあまり減じないで自動車時代に入つた勢をしめす以外、電氣機械工學品、精製品の減退は獨逸の輸出に大なる痛手となつた、いづれにしても獨逸の右の一年間の貿易に現はれた傾向

は猶しばらくは持續するものとみてよいのであらう。

○獨逸と日本の貿易 一九三三年の日獨貿易總額は九千二百萬マルク、其内獨逸の對日輸出は七千六百萬マルクで、總輸出の一・六％であるが、日本からの輸入は僅に千六百萬マルク即ち〇・四％に過ぎない、故に獨逸から見た日本は六千萬マルク内外の輸出超過である、従つて獨逸に利益ある相手國だといへる。

日本からの輸入を精製品と原料に分つと兩者殆ど其額を同じくする、食料品及食料の輸入は少額なるが、前年に比し殆ど三分一を減じ二百五十萬馬克程度に低下し、精製品は前年の八千七百四十萬馬克より七千萬馬克に減じた。

獨逸からの日本への輸出は八〇％まで精製品で其額は前年の七千二百萬馬克より一八％を減じた、之に反して原料及半製品は前年の八百十三萬馬克から一躍二倍となつた。

今その箇々の重要商品に就て見ると、獨逸の對日輸出でホップ、輕金屬、鐵塊、鐵半製品、硫安等何れも百萬馬克乃至二百萬マルク増加、鐵製品器具機械は各三百萬マルク増加し、毛織物(七十萬マルク減)フィルム(二十八萬馬克減)染料及藥、化學藥品(千百八十九萬マルク減)何れも減退して、日本の化學工業の發達したことを告げた。

日本からの輸入では工業加工用原料及半製品は概して増加したが精製品は何れも減少した、前者では魚油、鯨油(六七〇増)パリウム、鉛、ナトリウム、ニッケル合成物類(三〇

%増)綿屑(一〇〇%増)護謨製品(三五%増加)等であつて、魚粉の如きは前年の激減の後をうけて一躍百萬馬克をこへ、加工紙製品も三倍となり、樟腦も四倍に増加した、人絹も三倍ちかく増加したが、米と隱元豆は三分一減退、生蠶は五分二減退し、蟹と鰻の鰻詰は例外的に前年の八十萬マルクから百三十三萬馬克に増加した。これらの數字は獨逸農村振興策の影響とみられる點である。

○山東の水産 山東省の海岸線は延長二千餘里ありて魚鹽に富み、春より夏にかけては石首魚、大周魚、鮪、鰻、鯊魚、海參等にとみ冬は落子魚、鱈、秋刀魚あり、四、五月には車鰻、鱈、鰈がとれ五月、九月には白米魚や鯊魚がとれるがこれも一定の區域を游泳するので漁期に捕獲することになつてゐる、勿論潮流の關係で魚類の來集もかはり成山北港で鯊魚を産しても南港にはない、之に反して北港に車鰻がとれないが西港では豐漁であるといふやうな別がある、即ち石首魚は東經百二十一度七分から百二十二度一分北緯三十七度八分から三十八度五分の區間で海岸から二十三海里を離れてゐるし秋刀魚は劉公島附近海岸から六七海里などといふ風になつてゐる。

昔は山東民は魚鹽の利に便を得たが近頃は鹽田は大地主の擁する所となつて鹽戸は小作人のみで成立するが漁民の方は海匪の跋扈と日本人の漁撈に押されて全く手が出ない、支那人の漁船は舊式の帆船で線網を用ひるが、日本人は蒸汽船と

銅網を用ひ深水箇所に従事するために、帆船の作業する淺海に魚は來ないやうなつた、故に山東の漁戸は殆ど破産したといつてよいらしい。

猶又山東沿岸には冷蔵庫の設備がない、そこで捕獲せるものは、そのまま海上で日本漁船に賣却する、日本のトロールは自分でとる外に、かうしたものを買ひ集めて下關に歸つてくる、青島や烟臺の魚などもすべて日本漁船からの陸揚げであつて、支那漁船の量は少い、それは多く海上で密賣してしまふからだといふことである。

○滿洲の水運 遼河は全長二、五四〇浬で營口の河口から五六〇浬の鄭家屯まで舟行の便あり、鐵道開通以前日露戦争前まで一萬數千隻の舟があつたが現在約一千隻に減じた。

鴨綠江は全長五五〇浬で江口から一六〇浬は小型民船渡克が通る就業船舶約四千隻。

松花江は全長二、〇〇〇浬で吉林の上流三三〇浬の地から黒龍江との會點哈蘇々まで一千八百三十浬の可航區域があつて、江船一二隻汽艇十隻回手船一三三隻の外帆船の數二千に達し其能力は旅客一年二萬人貨物十萬噸に上る。

黒龍江は世界での瓦川で可航距離約八千八百萬浬に達する一千噸級以上の船舶が浮ぶ、綏遠、興東、武市、黒河、漠河瑗琿等いづれも重要な河港であり其他著名なのが凡六十五港に達する。

嫩江は全長八〇〇浬、水淺く大船の出入は不可能で僅に河

口と大費間約五〇浬のみ航行可能である。

○世界石油生産消費 一九三四年石油及關係燃料の世界生産と其消費額豫想は左の如く一九二九年の最高記録に匹敵す。(單位バレル)

	一九三三年石油	天然瓦斯	一九三四年豫想石油	瓦斯
米 國	八六、八七四	三、〇〇三	九〇、〇〇〇	三、〇〇〇
露 國	二四、〇七七	六〇	一五、〇〇〇	七五
ベネズエラ	二〇、八二二	四〇	二六、〇〇〇	六〇
ルーマニヤ	五、七二一	八五	五、七五〇	一、〇〇〇
波 斯	四、三二一	八〇〇	五、〇〇〇	八五〇
東印度	六、五三三	一、六〇〇	四、八〇〇	一、七〇〇
メキシコ	三、六五五	三三	三、一〇〇	四五〇
コロンビヤ	三、一五七	六〇	一六、二〇〇	四〇〇
アルゼンチン	三、九五五	三三〇	一四、〇〇〇	一、五〇
ペル ー	三、九五五	九二〇	一四、〇〇〇	一、〇〇〇
トリニダート	九、五〇〇	六〇	一〇、七〇〇	一〇〇
印 度	八、四四二	一一〇	八、八〇〇	一〇〇
イラク	一、一〇〇	—	四、〇〇〇	—
ポーランド	三、八五五	五〇一	三、三〇〇	五〇〇
サハレン	二、六〇〇	—	一、六〇〇	—
サラワク	二、二八八	五〇	二、〇〇〇	五〇
日 本	一、九三三	一一〇	二、〇〇〇	一三〇

ドイツ 一、七三三 三、一五九 二、〇〇〇 三、一〇〇
 合計 一、四七、八三〇 四九、三〇八 一、四八、三〇〇 五〇、六〇〇

世界總産額の六二%を産する米國は前年に比し一、二五%を増加せるに過ぎず、メネズエラは益々増加しコロンビヤは一九三三年に比し二五%の大増量なり。

消費費 消費豫想額(バーレル)

米國	一九三三年度	一九三四年度
露國	八六五、四四七	九〇〇、〇〇〇
英國	九五、五〇〇	九七、〇〇〇
フランス	六六、九〇三	七三、五〇〇
カナダ	三七、〇五九	三九、〇〇〇
ドイツ	三一、四七一	三四、〇〇〇
アルゼンチン	二三、五三七	二七、〇〇〇
日本	二〇、七〇〇	二一、四〇〇
メキシコ	一五、一九〇	一五、五〇〇
ルーマニヤ	一四、八八五	一五、〇〇〇
印度	一三、八八六	一四、五〇〇
伊太利	一二、六六〇	一二、九〇〇
東印度	一二、六一二	一三、一〇〇
瀛洲	一〇、一〇〇	一〇、三〇〇
ベルシヤ	一〇、〇〇〇	一〇、八〇〇
西印度	八、八五五	九、〇〇〇
	八、一〇〇	八、七〇〇

支那	七、七四五	八、一〇〇
和蘭	七、三一	七、七〇〇
瑞典	六、〇六二	六、二〇〇
メネズエラ	五、九〇〇	六、四〇〇
スペイン	五、四三一	五、三〇〇
ブラジル	五、三八〇	五、三〇〇
其他略		

○南米カリヤオ築港の完成

ペルーのカリヤオ港はその前にサン・ロレンソ島があつて天然の良港である、五十七年以前に佛國資本で築港され二十四呎の船がかゝりえたから南米唯一の新式港として知られてゐたけれども、今日となつてはこれが全く舊式で外國船舶はすべて冲懸となつて旅客は艀船で上下してゐたところ、一九二八年大統領レーギアは米國スネーア會社と契約して五百萬弗の工費、四ヶ年計畫で之を始めた、中途政變で中止したが一九三三年再び之を回復し、一九三四年十月に至り凡そ七百萬弗の經費で吃水三十三呎の船がかゝれる新埠頭が出来た、南側防波堤千米、北側防波堤鈍形二千三百四十米、水路二百米、港面二五八ヘクタール、岸壁から四個の突堤ができ、其幅中央は八十六米、兩端は三十米、干潮水深三十五呎である、十一月九日邦船樂洋丸入港新埠頭について、従前の混雜はなくなり自他共に其便利な設備を喜んだといふ。